

義務教育課長メッセージ

伊方町の実践に学ぶ

先週は雨が降り続けました。7日（火）には、臨時休業措置を取った県内の小中学校が272校に及び、南予地域では、月曜日から金曜日まで5日連続の臨時休業を余儀なくされた学校もありました。週が明けても、長雨の影響が懸念され、いつ土砂崩れが発生してもおかしくない場所があるなど、この先も予断を許さない状況です。

このような中、10日（金）の午前10時から、伊方町教育委員会のご協力を得て、「1人1台端末を活用したオンライン授業研究会」が開催されました。場所は、伊方中学校。災害対応で参加できなかった市町を除く、17市町教育委員会の担当者に、県教育委員会関係者が加わり、参加者は、優に30人を超えました。各市町担当者による情報交換の後、伊方中学校と川之石高校をZoomで繋いだオンライン授業の参観が行われました。伊方中の3年生に、福祉サービス系列で学ぶ川之石高の2年生が車いすの使用方法や手話について説明した後、福祉に関する意見交換を行うという内容でした。



伊方町は、県内で唯一、1人1台端末を実現している自治体です。小学校の端末整備は、平成28年の3月に、中学校は、この3月に整備が完了したとのことです。私は、午後からの業務の関係で、11時までしか学校に滞在できませんでしたが、30分ほど授業を見た印象は、「皆、端末操作に慣れている」というものでした。指導者の指示、それを受けての生徒の動き、どちらも無駄がなく、スムーズに授業が展開されていました。通信環境に関しても、回線が途切れることはありませんでした。

学校関係者に伺うと、生徒は、操作の仕方をすぐに覚えるということです。また、教職員についても、タブレットを使った授業に慣れるまで、思いのほか

時間は掛からなかったとのこと。設備が整うまでが大変。当然、研修の必要もある。けれども、整備された暁には、いつの間にか「タブレットがない授業なんて、とても考えられない」という状況になっているそうです。

新型コロナウイルス感染症に係る臨時休業中、Zoomを活用した双方向での授業や一方向での授業動画配信など、現在備えられている機器を最大限活用しての遠隔授業・教育を行った学校が、小中合わせて146校ありました。このうち双方向通信によるオンライン授業を実施した学校は16校と、4、5月時点では、まだ環境が整っていなかったのが実情です。先週、大雨による臨時休業中に、オンラインによる健康観察、授業や課題の提示等を実施した学校もあります。実施した学校は、東・中・南予、各地域に分散しており、ICT活用への意識が高まっていることが伺えます。

このほか、県内の各学校からは、

- ◆インターネット上のアンケートシステム等を利用した、アンケートや小テストの実施
- ◆YouTubeなどを活用したオンデマンド動画の配信
- ◆G Suite for Education等のクラウドサービスを活用した、課題の配付・回収・添削・返却

など、臨時休業の有無に関わらず、ICTを積極的に活用しようとする動きが報告されています。

遠隔授業を経験した児童生徒からは、「友達の顔が見られてよかった。」「課題の配付や提出があり、教室で授業を受けているのと変わらないと思った。」「オンラインで学習していると一人よりもきちんと学習に取り組み、規則正しい生活ができた。」などの声が聞かれました。教師からは、「子供の顔が見られて安心した。」「授業を何パターンか撮影するなど、授業内容を工夫することができた。子供たちの反応が分かりにくい分、少しでも分かりやすく伝えるために発問の精選に心掛けた。その結果、授業改善につながった。」などの感想が寄せられました。

終わりに、この研究会に合わせて、南予教育事務所では、別添1、2の参考資料を作成しました。伊方町の実践、先生方の声は、各市町の今後の実践の参考になると思われますので、ぜひ、添付資料に目を通してみてください。